

ビリーフからみる自己成長 — TA としての授業参加の意義 —

異文化コミュニケーション研究科言語科学専攻 博士課程前期課程 2年
西内 沙恵

○西内 では始めます。本学、異文化コミュニケーション研究科の言語学専攻 2年の西内沙恵と申します。2013 年度後期の「中級日本語」に TA として参加しておりました。今回は、TA の立場から授業に TA として参加させてもらうことの意義を考察したいと思います。【スライド⑥-1】

まず初めに、今回発表させて頂く概要をお話し致します。TA として勤務しながら私のビリーフにどのような変化があったのかということに週に一度ビリーフチェックつけていたものをまとめました。それをもとに、日本語教師を志す学生にとって TA というものがどのような意義を持ちうるのかということについて考察したことをお話ししたいと思います。【スライド⑥-2】

私は 2013 年度後期に開講された、読解教材を軸としながらディスカッションを行う授業に TA として参加しました。授業に参加する学生を、先生方は履修学生という風に統一して呼ばれていますが、本発表では受講者と呼びます。最初に丸山先生がおっしゃってくださったので繰り返しになりますが、受講者は立教大学が規定する J4 から J6 に判定された日本語学習者です。受講者は毎回宿題として読み物を読んでくること、作文を書くことが、そして最後の授業でのプレゼンテーションの準備をすることが必要になっています。私がどのような業務をしていたかというと、先生に指示されたハンドアウトの印刷といった授業準備のお手伝いや、学生として、受講者に目線が近い者としてディスカッションに参加することに従事していました。加えて、提出された課題で多く見られた語彙、文法の誤りについてフィードバックをするということもらせていただいていた。【スライド⑥-3】

次に、ビリーフの定義をまとめます。岡崎（2005）では、言語学習における

ビリーフというのは、言語学習及び教育の方法や効果について意識的、または無意識的に持っている信念、確信、あるいは態度のことである、と定義されています。なお、一般的には学習者のビリーフについて言われることが多いのですが、教授者のビリーフを知るといことも学習活動を支える視点を知る、という点から意義があると考えられ、今回の発表では私のビリーフ、私のビリーフになど興味無いという方が多いとは思いますが（笑）、実践研究というところから、内省をして見てみたいと思いました。このテーマを選択したのは、受講者により身近でありながら先生方から日本語以外、語学以外の観点、つまりどんな風に教えるのだろうだとか、黒板をどうやって使うのだろうかということを知りたい、先生から学ぼうとするTAとしての私のビリーフがどういう風に変化するのか、何か特徴が発見できるのかということに疑問を抱いたためです。【スライド⑥-4】

私のお話しする考察を観る前に、平畑（2005）と松田（2005）という先行研究をレビューしたいと思います。まず平畑（2005）を簡単にレビューしますと、平畑（2005）では日本語教員養成課程で学ぶ実習生が現実の教育場面に参加しながら、その学習過程を内省し、各自の問題の解決方法を模索する様子をビリーフチェックを通して分析をしています。学習者のビリーフも調査しているんですけど、今回は実習生とTAとしての私のビリーフを比較する目的で、実習生のビリーフの調査結果に着目します。

そして松田（2005）では、教師間のビリーフの異なりとそこから生じる問題点を明らかにする試みがなされています。現在の日本語教育の現場で活動している先生方の教育への意識及びビリーフが調査された結果、経験年数によって教師の間で教育に対する意識に溝があるようだ、ということが観察されたことが報告されています。具体的にどのような溝が存在したのかということは、後で触れたいと思います。このように、ビリーフにまつわる調査研究は様々になされています。本発表では、いずれの先行研究とも手法が異なるので、簡単に、また大味にはなるのですが、ビリーフの変化という点で比較を試みたいと思います。【スライド⑥-5】

それでは、私の調査、その手法と結果についてお話し致します。本調査にあたり、リサーチクエスションを二つ設定しました。まず一つ目に、TAの業務を通して、ビリーフの変化は起こるのか、揺れ動くのかということです。二つ目に、先ほど述べた先行研究と比べてTAとしてのビリーフの特徴が見られるのかとい

うことです。この二点を明らかにする目的から、データをもとに考察をしたいと思います。【スライド⑥-6】

データの収集方法としては、週に一度、授業の前日に前回の授業の振り返りをした上で、ビリーフチェックシートに記入をしていきました。授業は全 14 回でしたが、初回と二回目はまだ調査の方針を決めていなかったため、収集したビリーフチェックは 12 回分となりました。また、チェックした項目の数値がどう動いたかというのは自分で振り返りながら内省によって理由付けをしました。ビリーフチェックシートは、川口・横溝（2005）を参考に 9 つの項目で構成しております。【スライド⑥-7】

一つ目が、「学生の文法の間違ひはその場で訂正すべきだ」というもの。二つ目に、「学生の語彙の間違ひはその場で訂正すべきだ」というもの。三つ目は、「学生の発音の間違ひはその場で訂正すべきだ」。四つ目に、「学生の表記、仮名や漢字の間違ひはその場で訂正すべきだ」というもの。五つ目に、「教室の中では学生は日本語だけで話すべきだ」。六つ目に、「教室の中で教師は日本語だけで話すべきだ」。七つ目に、「教室の中で教師はティーチャートークを用いるべきだ」。八つ目に、「宿題の添削において学生の間違った箇所は全て訂正すべきである」ということ。最後の九つ目は、「現時点での理想とする日本語教師像のキーワードを優しい、厳しい、真面目、親しみやすい、面白い、厳格から選ぶ、もしくは自由記述する」というものです。項目内の言葉の定義は省略をさせていただきます。以上の項目について、私がチェックしていた結果を表示します。チェックは、1「そうは思わない」、2「あまりそうは思わない」、3「分からない」、4「そう思う」、5「とてもそう思う」のレイティングスケールとなっています。【スライド⑥-8】

このような結果が得られたことの分析としましては、1「そうは思わない」、2「あまりそうは思わない」を選択した部分を否定的判断、4「そう思う」、5「とてもそう思う」を選択した部分を肯定的判断として観察した場合、まず一項目目の「学生の文法の間違ひはその場で訂正すべきだ」というものと、七つ目の項目の「教室の中で教師はティーチャートークを用いるべきだ」というもの、この二つの項目は肯定的判断が選択されませんでした。一定して 3 を選んでいることもあるのですが、肯定的判断を主にして、否定的判断に揺れること、またその逆は無かったですね。それから、残り 2、3、4、5、6、8 の項目に関しては、肯定的な判断と否定的な判断の間で揺れていました。最初はあまり必要ないので

はないか、「そうは思わない」としていた項目でも、授業の後半になると、だんだん必要な気がしてきた、と感じるようになった場合、その反対に、最初はずごく大事だと思っていたものの、後半になるとその場面によるのではないかなと感じるようになり、否定的な判断に揺れたということがありました。それから、九つ目の「現時点での理想とする日本語教師像のキーワード」に関しては、毎回全く同じではありませんでした。ただし、「親しみやすい」と「厳格である」というキーワードは毎回選択していました。自分にとって大事であったり、先生の授業を見ていて大事なかなと感じたりした項目なのだろうと思います。【スライド⑥-9, 10, 11】

最後に、先行研究の比較をもとに考察を少し深めたいと思います。まず平畑（2005）では、実習生にフォーカスをあてたビリーフの揺れ方のまとめとして、実習生は、実習後に実習前より指導について楽観的に捉える傾向があるということがビリーフチェックから観察されたことを報告しています。同じビリーフチェックは使用していないので、似た項目だけを照らし合わせました。平畑（2005）では「学生の間違ひは訂正すべきだ」という項目は、最初は、必要だ、と肯定的な判断をしていたものの、実習後にはその場合によるだろう、と楽観的に、厳しくしなくてもいいのではないかと判断する傾向が見られたとのこと。一方、私のビリーフチェックでは、実習生のビリーフの変化と同じように半分以上の項目で楽観的に変化しているのですけれど、楽観的な回答から必要性を重んじる厳格な肯定的判断に変わっていったところもありました。そのため、実習生とTAとして勤めていた私では、ビリーフの揺れ方で違う点も見られたと言えます。

この結果は、継続性と将来の展望によるのではないかと考えています。つまり、TAという仕事が短期的なものではないことと、TAを勤めながら現実的に将来日本語教師として働きたいと思っていることが影響しているのかもしれないと思っています。平畑（2005）の被調査者の実習生のことを知らないで簡単にまとめてしまったのですけれど、TAと実習生では少し違う心の変化があるように推測します。恐らく、長く務めさせてもらえるということに関係しているのではないかと。

次に松田（2005）ですが、松田（2005）では教師間でのビリーフの異なりというものが調査されており、新米教師とベテラン教師の間で溝があるというこ

とが述べられています。具体的には「新米教師はベテラン教師に対して教師主導的な印象を抱いている」ことが多く、「ベテラン教師は新しい理論や新しいことがあまりできない」という風に捉えている人が多かったそうです。書いてあったことで私がそのように思っているわけではないです(笑)。それから、ベテラン教師は新米教師に対して、「頭でっかちだ。日本語教育能力検定試験に受ければ日本語を教えられるとっていないか」という印象を抱いていると報告されました。なかなか辛辣なのですが、真摯に受け止めなければと感じています。松田(2005)では、こういう印象の差、溝があるがビリーフのチェックからも観察されたことが報告されています。

このような報告から、TAを通して様々な経験を持つ先生方と接触できる、指導して頂ける機会が得られることは、松田(2005)で報告されているような溝を埋めるきっかけ、チャンスを与えてくれていることにつながるのではないかと思います。【スライド⑥-12】

以上で発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。【スライド⑥-13】

参考文献

- 川口義一・横溝伸一郎(2005)『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(上下巻)』ひつじ書房
- 大河原尚(2006)「他者の経験を知ることの意味:多様な確信(ビリーフ)を持つ教師と日本語コースのあり方に関する考察から」大東文化大学『別科日本語教育:大東文化大学別科論集』8号, 1-9.
- 岡崎眸(2005)「信念(ビリーフ)」日本語教育学会『新版日本語教育事典』, 807-808.
- 小原亜紀子・栗原明美(2008)「インドネシアにおける高校日本語教師研修に関する一考察—西ジャワ州・東ジャワ州のビリーフ調査結果を通して—」独立行政法人国際交流基金『国際交流基金日本語教育紀要』4号, 27-40.
- 日本語教育学会(2005)『新版日本語教育辞典』大修館書店
- 平畑奈美(2005)「初級実践研究における学習者・実習生のビリーフ変化と学び—2005年度春学期「日本語教育実践研究(3)」からの報告—」早稲田大学大学院日本語教育研究科『早稲田大学日本語教育実践研究』3号, 67-83.
- 松田真希子(2005)「現職日本語教師のビリーフに関する質的研究」長岡技術科学大学『長岡技術科学大学言語・人文科学論集』19号, 215-240.

【スライド⑥-1】

ビリーフからみる自己成長



~TAとしての授業参加の意義~

於 立教日本語教育実践学会 パネルディスカッション

立教大学 大学院
異文化コミュニケーション研究科
言語科学専攻 2年
西内沙恵

【スライド⑥-2】

1 はじめに

- TAとして勤務しながら、発表者のビリーフにどのような内的変化が現れたのか、川口・横溝(2005)を参考に作成したビリーフチェックテストを用いて内省
- 日本語教師を志す学生がTAとして授業に参加することの意義を考察

【スライド⑥-3】

1 はじめに

- 発表者: 読解教材を軸としながらディスカッションを行う授業にTAとして参加 (2013年度後期開講)
- 受講者: 立教大学が規定するJ4~J6に判定された日本語学習者

TAの業務

- 授業の準備のお手伝い
- 学生として受講者の一人のようにディスカッションに参加
- 宿題や課題で多く見られた語彙や文法の誤りのフィードバック

【スライド⑥-4】

2 ビリーフの定義

- 言語学習におけるビリーフとは、言語学習・教育の方法や効果について、意識的または無意識的に持っている信念や確信、態度のこと (日本語教育学会, 2005)
- 学習者だけでなく教授者のビリーフを把握することには、学習活動を支える観点を知るという意義がある。

➤ 疑問

受講者により身近存在であり、日本語以外を教授者から学ぼうとする発表者のビリーフがどのように変化するのか。

【スライド⑥-5】

3 先行研究

➤ 平畑 (2005)

日本語教員養成過程で学ぶ実習生が現実の教育場面に参加し、学習支援を行いながら、その学習過程を内省し、各自の問題の解決法を模索する様子をビリーフから分析

学習者のビリーフも調査し、実習生のビリーフチェックと比較している。

➤ 松田 (2005)

教師間のビリーフの異なりとそこから生じる問題点を明らかにする目的で、現在日本語教育の現場で活動している教師の意識を調査している。調査の結果、経験年数によって教師間で教育に対する意識に溝が観察された。

【スライド⑥-6】

4 リサーチクエスチョン

1. TAの業務を通して、ビリーフの変化は起きるのか。
2. 先行研究と比べ、TAとしてのビリーフの特徴が見られるか。

【スライド⑥-7】

5 データ収集方法

- 授業の前日に、先週の振り返りをした上でビリーフ・チェックシートに記入
- 週に1度、授業後の12回分のビリーフチェック
- 内省によりデータの変化の理由付け

- ビリーフ・チェックシートは川口・横溝(2005)を参考に、9つの項目で構成

【スライド⑥-8】

ビリーフ・チェックシート

※項目内の言葉の定義は省略する。

1. 学生の文法間違いは、その場で訂正すべきだ。
2. 学生の語彙の間違いは、その場で訂正すべきだ。
3. 学生の発音の間違いは、その場で訂正すべきだ。
4. 学生の表記(仮名、漢字)の間違いは、その場で訂正すべきだ。
5. 教室の中では、学生は日本語だけで話すべきだ。
6. 教室の中で、教師は日本語だけで話すべきだ。
7. 教室の中で、教師はティーチャー・トークを用いるべきだ。
8. 宿題の添削において、学生の間違った箇所は全て訂正すべきである。
9. 現時点での「理想とする日本語教師像」のキーワードを選んでください。
やさしい・きびしい・まじめ・親しみやすい・面白い・厳格・その他()

【スライド⑥-9】

6 結果

授業回数	1	2	3	4	5	6	7	8
授業日	2013/9/24	2013/10/1	2013/10/8	2013/10/22	2013/10/29	2013/11/12	2013/11/19	2013/11/28
チェック項目	チェックシート記入日	2013/9/23	2013/9/30	2013/10/7	2013/10/21	2013/10/28	2013/11/11	2013/11/18
1	学生の文法間違いは、その場で訂正すべきだ。		3	4	3	3	5	5
2	学生の授業の間違いは、その場で訂正すべきだ。		2	4	3	3	5	5
3	学生の発音の間違いは、その場で訂正すべきだ。		4	3	3	2	3	4 習慣？
4	学生の表記(仮名、漢字)の間違いは、その場で訂正すべきだ。		4	4	4	3	3	4 求められる機会を自分で探さようとする場合がある
5	教室の中では、学生は日本語だけで話すべきだ。		5	5	4	4	5	4
6	教室の中で、教師は日本語だけで話すべきだ。		4	4	4	4	4	4
7	教室の中で、教師はティーチャートークを用いるべきだ。		4	4	4	3	3	4 反応がいい
8	宿題の添削において、学生の間違った箇所は全て訂正すべきである。		4	3	3	2	5	3
9	現時点での「理想とする日本語教師像」のキーワードを選んでください。やさしい・きびしい・まじめ・親しみやすい・面白い・厳格・その他()		きびしい・親しみやすい・面白い・分かりやすい・説明ニーズに応えること	親しみやすい・面白い・厳格・(複数)	親しみやすい・面白い・厳格・(複数)	親しみやすい・面白い・厳格	やさしい・親しみやすい・面白い・厳格	きびしい・親しみやすい・厳格

【スライド⑥-10】

6 結果

授業回数	9	10	11	12	13	14	
授業日	2013/12/3	2013/12/10	2013/12/17	2014/1/7	2014/1/14	2014/1/21	
チェック項目	チェックシート記入日	2013/12/2	2013/12/9	2013/12/16	2013/1/6	2013/12/23	
1	学生の文法間違いは、その場で訂正すべきだ。	5	4 negative feedback	3 時間が…	3	3	
2	学生の授業の間違いは、その場で訂正すべきだ。	4	3	4 リキヤストで十分？	4	3	
3	学生の発音の間違いは、その場で訂正すべきだ。	3	4	3	2	3	
4	学生の表記(仮名、漢字)の間違いは、その場で訂正すべきだ。	5	5	3	2 黙々と書いていくとき	2	
5	教室の中では、学生は日本語だけで話すべきだ。	4 母語話者同士の会話が意見がまとまっている？	4 self correct	4	2 母語話者同士のやりとりは尊重？	3	
6	教室の中で、教師は日本語だけで話すべきだ。	2	4	4	2 文法用語	4	
7	教室の中で、教師はティーチャートークを用いるべきだ。	3	4	4	4 分かりやすい・そう・よどまない	4	
8	宿題の添削において、学生の間違った箇所は全て訂正すべきである。	3	3	2 直しきれない？	2	2	
9	現時点での「理想とする日本語教師像」のキーワードを選んでください。やさしい・きびしい・まじめ・親しみやすい・面白い・厳格・その他()	親しみやすい・面白い・厳格	親しみやすい・面白い・厳格	親しみやすい・面白い・厳格	親しみやすい・面白い・厳格・態度を教えない・私を持っていかれない	まじめ・親しみやすい・厳格	まじめ・親しみやすい・厳格(丸顔面)

【スライド⑥-11】

7 結果分析

- 1・2を否定的判断、4.5を肯定的判断として観察する。
- 1「学生の文法間違いは、その場で訂正するべきだ」と7「教室の中で、教師はティーチャー・トークを用いるべきだ」の肯定的判断
- 残りの項目の肯定的判断と否定的判断の間でのゆれ
- 9「現時点での「理想とする日本語教師像」のキーワードを選んでください」での毎回異なる回答「親しみやすい」と「厳格」は毎回選択

【スライド⑥-12】

8 考察

先行研究との比較

平畑 (2005)

- ビリーフのゆれ方
- 平畑 (2005)の被調査者は実習後は実習前より指導について楽観的に捉える傾向

→発表者と異なる。継続性のためか。

松田 (2005)

- 新米教師とベテラン教師の溝
- TAを通して様々な経験を持つ教師と接触し溝を埋められる

【スライド⑥-13】

参考文献

川口義一・横溝紳一郎 (2005) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック(上下巻)』 ひつじ書房

大河原尚 (2006) 「他者の経験を知ることの意味:多様な確信(ビリーフ)を持つ教師と日本語コースのあり方に関する考察から」大東文化大学『別科日本語教育:大東文化大学別科論集』8号, 1-9.

小原亜紀子・栗原明美 (2008) 「インドネシアにおける高校日本語教師研修に関する一考察-西ジャワ州・東ジャワ州のビリーフ調査結果を通して-」独立行政法人国際交流基金『国際交流基金日本語教育紀要』4号, 27-40.

日本語教育学会 (2005) 『新版日本語教育辞典』大修館書店

平畑奈美 (2005) 「初級実践研究における学習者・実習生のビリーフ変化と学び-2005年度春学期「日本語教育実践研究(3)」からの報告-」

早稲田大学大学院日本語教育研究科『早稲田大学日本語教育実践研究』3号67-83.

松田真希子 (2005) 「現職日本語教師のビリーフに関する質的研究」長岡技術科学大学『長岡技術科学大学言語・人文科学論集』19号, 215-240.